

前島豊平(とよひら) 自由民権家。天保六年七月五日駿河國有渡郡古庄
村生れ、明治二十二年二月十二日歿(八三—九〇)。通稱久兵衛。號
富士太郎、嶽南狂客、日本第一山南居士、頼古散人、駿狂等。初の儒
醫大野祐齋(とよ)に、次ぐ長島樂山の塾(じゆ)を學び、村松晩村、戸塚積齋等と交
社を興して詩文の遊んだ。安政五年名主。傍ら漢學の勤しみ、慶應二
年『古文孝経纂釋』を刊行。明治五年匝戶長として『明津九族圖解』
を著はし配布。また私塾を古庄書院を開く。七年静岡縣出仕、九年縣下
第一號とほる、代言人資格を得る。十一年大江孝之等と政治結社靜陵社
を結成、翌年縣議。十四年攪眠社を創設して『東海曉鐘新報』を創刊
と、政談演説「事物變遷論」により下獄。また斷續的發行停止處分の
該紙は、二十一年澁江保を主筆としたが一時期刊、翌年改題の『曉鐘新
報』發刊、二十四年新たに『東海曉鐘新聞』を創刊した。

村本山雨楼主人著『静岡事件の全貌—附録前島頼古散人「獄窓雜記」』
(昭和四十二年五月十日静岡・政教社)、前島(あまの)頭(あたま)著『草莽の民権家前
島豊平(とよひら)—静岡自由民権運動の先驅者』(昭和二十一年一月十五日

(二)書房)のり。

